

# 令和4年度 ブロック別研修会の取り組み 実践発表 ～幡多北ブロック 黒潮町立大方中央保育所～

## 1.大方中央保育所の概要

### ○園児数、クラス数、職員構成

クラス	ひよこ	あひる	こあら	りす	うさぎ	ぱんだ	きりん	ぞう
年齢	0歳児	1歳児	1歳児	2歳児	3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
人数	7	10	10	18	15	15	21	24
職員数	2	2	2	3	1	1	1	1(5)

○所長 ○副所長 ○家庭支援（各1名）

### ○めざす子ども像

- ・基本的な生活習慣を身に付ける
- ・人の話をよく聞き、自分の思いを伝えられる子ども。
- ・友だちとの関わりの中で、優しさや思いやりの心が持てる子ども。
- ・色々なものに興味を持ち、自ら遊び、考え行動できる子ども。

### ○保育目標（黒潮町統一）

子ども一人ひとりを大切に、心身共にたくましく感性豊かな子どもに育てる。

## 2.研修目標

- ・主体的に生活や遊びを展開する中で、友だち同士認め合える環境構成と保育者の援助について

## 3.研修目標設定の理由

- ・子どもの実態・・・元気に戸外遊びや室内遊びを楽しむ子どもたちだが、友だち同士の関わりの中で言葉での伝え合いができにくかったり、経験不足から自信がなく失敗することを嫌がったりする姿が見られる。
- ・育てたい姿・・・いろいろな経験を通して自信をもって生活や遊びを展開し活動する中で、友だち同士認め合える心を育みたい。
- ・具体的な取り組み・・・生活や遊びの中でいろいろな経験ができる環境を用意し、その中で主体的に遊びを展開し自信につながる援助や支援を学ぶ。

## 4.年間取組内容

月	計画	内容
4月	園内研修	今年度の方向性と研修目標について
5月	園内研修	研修の方向性についての共有 指導案作成の学習会
6月	園内研修 (3歳児事例研究保育)	事例研究を通しての子ども理解
7月	園内研修 (親育ち支援保育者研修)	講話を通しての研究協議
8月	保幼小連携・接続学習会	就学に向けての学習会
9月	園内研修 (5歳児支援児研究保育①)	本日の保育を通しての研究協議
10月	園内研修 (3歳児園内研究保育)	本日の保育を通しての研究協議
11月	公開保育・研究協議 (2・3・4・5歳児)	公開保育・本日の保育を通しての研究協議
12月	園内研修 (5歳児支援児研究保育②)	本日の保育を通しての研究協議
1月	園内研修	研修に基づいた成果と課題の振り返り
2月	13ブロック交流会への参加 園内研修(保小接続5歳児研究保育)	一年間の振り返りを行う 就学に向けての研究協議
3月	園内研修	総括から次年度に向けての協議・計画作り



## 5.成果

### ①子どもの変容

- ・子ども理解、環境構成を中心に協議をすることで、一人一人に丁寧に関わり、発見や工夫を周りの子どもへ広げてきた。友だちへの興味、関心が増え、友だちを誘いイメージを共有しながら遊ぶ姿が多くみられるようになってきた。
- ・保育者が主体的に自分を表現する子どもの姿を肯定的に受け止め、言葉をかけたり関わったりすることで、信頼関係を築き安心していろいろな経験を積み重ねることができた。その中で、子どもたち同士で認め合う姿が増え自信にもつながっている。
- ・乳児は日々の積み重ねや言葉がけを大切にすることで、安心して生活し、保育者や友だち同士の言葉でのやり取りが増え、自分でしてみようとする姿が多くなってきた。

写 真

## 5.成果

### ②研修体制に関わる内容

- ・公開保育や事例研修を通し協議をする中で、子ども理解を深め現状に合った関わり方を探り、職員全員で共通理解を行い、丁寧な関わりをすることができた。
- ・自分の保育とは違った角度から子どもの気になることや、育ちつつある姿を見てもらうことで、子ども理解につながり、子どもや保護者への援助の在り方について学びになった。
- ・研修目標について保育の課題を明らかにすることで、環境構成や、子どもの関わり方を保育所全体で考えられるようになった。

## 5.成果

### ③保育者の意識や保育実践の変容

どのようにすれば子どもが主体的に活動できるか意識することで、子どもの行動や思いに寄り添い、興味・関心をもっているか探り、より子どもの内面を深く読み取るようになってきた。

子どもの主体性を意識し、遊び込める環境構成を考えるようになった。

子どもの育ちを読み取り、子どものマイナス面よりプラス面に目を向けることや、ほめることを大切にしていた。

ねらいを明確化し、計画を立てて保育をするようになってきた。

## 5.成果

### ④公開保育を振り返って

いろいろな視点からアドバイスをもらうことで、自分の保育を振り返り、より広い視点で多面的に考える機会になった。



研修目標を設定し、保育所全体で学び合う機会をもつことで子どもが主体的に遊べる環境構成や保育所の援助を職員で考え共有し実践することができた。



子どもたちの主体性が生まれる環境構成を考えるようになった。



## 6.来年度に向けて

### ①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・遊び込める環境構成を工夫しながら、主体的に友だちと一緒に遊びを展開し、考える力を育みたい。
- ・子どもの姿、行動をプラスに受け止めて、内面理解や援助につなげ子どもの自己肯定感を高め自信につなげていきたい。

### ②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・全職員が園内研修(公開保育)を行い、学びを深められる体制を整え子ども理解を深める。
- ・子どもの育っている力を保護者にコメント付きの写真で伝え、共通理解し育ちにつなげる。
- ・日々の保育の振り返り、共有することで自分の身に付けたい力を意識し専門性を高める。
- ・今年度学んだ環境構成と援助を次年度に生かしていく。

